



ROTARY INTERNATIONAL 2720

玉名ロータリークラブ週報

2015
2016



世界へのプレゼントになろう

R I 会長	■ K. R. “ラビ” ラビンドン
地区ガバナー	■ 野 田 三 郎
会 長	■ 鶴 田 倫 明
幹 事	■ 大 石 勉 司
広 報 委 員 長	■ 堀 本 武 司

例会日 ■ 毎週木曜日 / PM12:30~13:30

例会場 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺 50-1 司ロイヤルホテル内
TEL(0968)73-8888 FAX(0968)73-8008

事務所 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺 540-1 安東アパート 102 号室
TEL(0968)73-3399 FAX(0968)74-3939

平成27年11月26日 No.2279

玉名RCメールアドレス jimu@tamanarc.org

ホームページ <http://www.tamanarc.org/>

◎ゲスト

玉名ローターアクトクラブ 幹事 鶴田結香様

【会長の時間】 田畑バスト会長

皆さんこんばんは。

鶴田会長が眼の治療でお休みのため、本日は私が会長代行を務めさせていただきます。

私が会長の時には、会長の時間はローターの歴史の話をしてきましたので、本日もそのような話をしたいと思えます。

田原さんがガバナー補佐をされていた年度の IM で、ローターの歴史の話をせよということで少し話をさせていただきましたが、本日はその時の話の中からローターの公式標語 (MOTTOS) の話をもう一度したいと思います。ローターの基本理念として「ローターの目的」があり、ローターの行動指針として「四つのテスト」があります。この二つは例会時にいつも唱和をしているわけですが、この他にもローターには二つの公式標語 (MOTTOS) があります。

標語は、その主義主張を表現した言葉ですから、これらもローターの基本理念と言えます。

標語の第一は、「Service Above Self」です。日本語訳は「超我の奉仕」となっています。

若い年数の会員の方も聞いたことがあると思いますが、私も入会当時あまり意味がよくわかりませんでした。この言葉の原語は「Service not self」です。

当時のアメリカは商道徳が地に墮ち、騙された方が悪いというような経済環境でしたので、信頼できる会員のお互いの取引により職業上の利益の向上がローターの目的の一つとされていました。

現に、ローターに入ると金持ちになれるという話もあった程です。

さて「Service not self」ですが、1911年ポートランド大会のエキスカージョン (副次的な観光めぐり) の時に、ミネポリスクラブ会長のフランクリン・コルズが短いスピーチを行い、この中で言ったのが「Service not self」です。当時の会員間の互惠取引で利益が向上したので、そろそろ仲間内だけでなく他にも広げてあげようじゃないかということです。後にこの言葉が経済的側面に偏っているので、哲学的意味も付加して

「Service Above Self」としたわけです。誰が変えたかはわからないようですが、1921年コルズが



亡くなって以降、「Service Above Self」が用いられるようになりました。

第二標語は、「One Profits Most Who Serves Best」です。日本語訳は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」です。原語は「He profits most who serves his fellows best」です。

「his fellows」が無くなり、「He」が「They」に変わり「One」になりましたが、これは、アーサー・フレデリック・シェルトンがつけました。ポール・ハリスがローターの創立者であると共に、シェルトンはローター理念の提唱者といわれています。

彼は自らも大変優秀なセールスマンでしたが、シカゴにビジネススクールを設立して、サービス理念を中核とした販売を指導しました。この時の彼のサービス哲学がこの言葉です。

彼は、当時の劣悪な経済環境の中で、持続して繁栄し発展しているいくつかの企業に共通して見られる特徴を「サービス」と名づけました。価格が安いだけがサービスではなく、店主や従業員の顧客への態度や気配り、商品や業務に対する責任、顧客が感じる満足感と公平感、こうしたもの全てがサービスであり、サービスこそが企業の永続的発展と成功を保障する方法であると言いました。

今では企業態度として当たり前のことがらですが、当時はたいへん先駆的な考えだったわけです。

このようなことから、「サービス」を「奉仕」とするのは少し意味が違うように感じます。今でも「奉仕」と訳するのは間違いだという先輩ローターもいらっしゃいます。

ともあれ、シェルトンの企業活動に対する事業倫理、サービス哲学を表した言葉ということです。

シェルトンはローターが設立された3年後の1908年にシカゴ RC に入会し、ローターの理念を構築していったわけですが、これも順調に進んだわけではありませんでした。

1929年のダラス国際大会で、彼のモットー「He profits most who serves best」を廃止しようという決議が、RIBI（イギリスを中心とする RI の自治区）から提案され、アメリカからもこれを支持するクラブが出ました。結果として廃止にはなりませんでしたが、このことが原因かどうかはわかりませんが、1930年シェルトンが突如ローターを去ります。

シェルトンという偉大な精神的基盤を失ったローターは、経済不況も加わって、急速にその勢力を殺がれていきます。シカゴ RC でも退会者が激増しました。

1929年から始まった世界大恐慌は悪化の一途とたどり、1932年ローターが支持する共和党のフーバー大統領（アーカンサス州ブルック RC）に代わって、ライオンズが支持する民主党のルーズベルトが政権を取るに至りました。

しかし、ローターは以降その勢力を復活し、この二つの標語は現在でも残っています。

私は、この二つの公式標語（MOTTOS）にあるローターの原点の心を、多くのローターが支持し続けてきた結果であると思います。

因みに、ローター財団の標語は「Doing Good in the World」（世界で良いことをしよう）、ローター外の標語は「Fellowship Through Service」（奉仕を通じての親睦）となっています。

本日は久しぶりに時間を頂いて、またローターの歴史の話をさせて頂きました、ご清聴ありがとうございました。

【幹事報告】大石幹事

○地区史Ⅲ編纂にあたってのお願いがきています。

（地区史Ⅱから10年間の歩み・・・12/22まで提出）

○地区補助金管理セミナー開催のご案内がきています。

日時 平成28年1月31日（日）13:30～16:30

場所 熊本市富合ホール（アスパル富合）

○ローターアクト年次大会(11/21～11/22 別府)へ玉名ローターアクトクラブより3名と私幹事が出席してきました。当日の資料を回覧します。



- 米山奨学生卓話に梁さんと村上カウンセラーと渡邊太会員が 11/24 熊本菊南 RC 例会へ出席されました。バナー交換をされています。<熊本菊南 RC バナー紹介>
- 玉名中央 RC 週報を回覧します。

【スマイル報告】 深見委員長

田畑会長代行・大石幹事・・・ローターアクトクラブ鶴田幹事のご来訪心から歓迎いたします。年次大会おつかれさまでした。今日の報告よろしくお願ひします。

高木幸さん・・・跡継ぎの長男が11月21日に結婚いたしました。これからもよろしくお願ひします。

吉岡さん・・・ローターアクトクラブ鶴田結香様のご来訪心から歓迎いたします。

堀本さん・・・ローターアクトクラブ鶴田結香様のご来訪心から歓迎いたします。JC シニアクラブ理事会のため早退します。

河田さん・・・鶴田様のご来訪心から歓迎いたします。

山田司さん・・・鶴田様の卓話ありがとうございます。

松崎さん・・・鶴田結香様の卓話ありがとうございます。

吉永さん・・・田畑会長よろしくお願ひします。鶴田様よろしくお願ひします。

渡邊太さん・・・ローターアクト鶴田様の卓話ありがとうございます。先日、初めてメイクアップに行つて来ました。また違った例会で良い経験になりました。

村上さん・・・玉名 RAC 鶴田結香様の卓話ありがとうございます。創立時より、活躍されている事に敬服します。お父さんの鶴田会長が、退院されて自宅に帰られたら、「こんな可愛い娘がいたのか!」と感動されると思います。

田原さん・・・玉名 RAC 鶴田結香様のご来訪心から歓迎いたします。

深見さん・・・玉名 RAC 鶴田結香様のご来訪心から歓迎いたします。

鶴田会長・田畑さんへボックスへ

前回までの累計 ￥442,290
 今 回 ￥24,000
 合 計 ￥466,290

【出席報告】 深見委員長

本日の出席	会員数	46(38)名	欠席者	浜田 廣田 西村 野田 西嶋
	出席数	21名		小篠 志賀 鶴田 津留 豊永
	出席率	55,26%		浦田 上村 上田継 山田邦 米倉 山口 山村
前回の出席	前回出席数	24名	前回のメイクアップ	鶴田
	修正出席数	25名		
	修正出席率	62,50%		
出席規定適用免除者		9名		

【今後のプログラム予定】

12月3日（木）年次総会

【卓話】

「ローターアクト年次大会報告」

玉名ローターアクトクラブ 幹事 鶴田結香様



皆様こんにちは、玉名ローターアクトクラブ幹事の鶴田です。父が日頃から大変お世話になっております。そして、父は先週から入院しており、ご迷惑をおかけしています。お陰様で、右目の手術も昨日無事に終わりました。父が復帰しましたら、またよろしく願いいたします。

さて、本日は玉名ロータークラブ例会の貴重なお時間をいただきありがとうございます。11月21日、22日の二日間、大分県別府市のビーコンプラザで行われました国際ロータリー第2720地区ローターアクト第31回年次大会について、この場をお借りしてご報告いたします。年次大会には会計の富田大地と副幹事の井上なつみと私、鶴田の3名で参加しました。大会当日は、ロータリアンの方々が60名、第2720地区ローターアクト120名、他地区ローターアクト60名の総勢200名ほどの参加がありました。

1日目には国際ロータリー第2720地区ガバナー野田三郎様による基調講演と、その夜には懇親会もあり、2日目は大会のメインプログラムなどが催されました。1日目には玉名ロータークラブから幹事の石様も一緒に参加していただき、感謝申し上げます。

年に一度の機会とあって、他地区からは横浜や長野、京都府など遠方からも多くのローターアクトが参加されていました。日頃はまず会えることのない他地区の仲間と交流を深め、それぞれのアクト活動について語り合えるのも、年次大会ならではの貴重な体験でした。私も、第2690地区の岡山県の倉敷南ローターアクトクラブの方とお話しできる機会があり、大変刺激を受けました。こうして年次大会に参加できたのも、玉名ロータークラブの皆様の支援があってこそです。本当にありがとうございました。

野田ガバナーの講演についてですが、「ローターアクトへのメッセージ」と題され、熱のこもった素晴らしいお話を聞くことができました。いくつか印象に残ったお話をご紹介します。

野田ガバナーは、人生を家庭生活、職場生活、社会生活の3つの生活で構成されていると考えておられました。例えば家族関係のことなら家庭生活であり、仕事は職場生活となり、ローターアクトの活動は社会生活に入ります。ここで重要なのは、例えば安全な建物でなければ安心して過ごせないのと同じように仕事は手につかず、安心安全な病院でなければ素晴らしい医療は受けられません。そう考えると社会全体はすべて、安心・安全なサービスの提供と享受による信頼関係のもとで成立しているという考え方ができます。当然ながらそれを裏切ると社会から退場させられることとなります。同じ様に会社でも、商品やサービスにより得るものは実は「お金や仕事」ではなく「信頼」であり、最初は小さなその信頼も、積み重ねて数を増やすことで大きな

信頼となります。それが結果として「徐々に売上利益が上がった」という成果につながるという考え方です。同じように、野田ガバナーはロータリーを「奉仕の理想」を持った人の集まりと考え、「奉仕の理想」とは、家庭・職場・社会それぞれの生活において、自分を取り巻く人の中で一人でも多くの人からの信頼を得るように努めることだと言われました。自分を信頼してもらおうと言って他者からの評価を無理矢理変えるというのは無理ですが、自身の成長に努めることで信頼を得て存在価値を高め、周囲にも良い影響が出て人生を充実させるというのは可能だという、野田ガバナーの貴重な人生哲学を分かりやすく伝えていただきました。個人としても玉名ローターアクトとしても、今後成長に努め、存在価値を高めていけたらと思います。

2日目の大会メインプログラムでは、エゴグラムという診断法が使われました。エゴグラムとは、人間の複雑な性格を6つの領域に分けて調べてその傾向を知ることができる性格診断法の一つだそうで、長所と短所を大まかに知ることができます。

今回は6つの領域で一番高かった点数に応じてロールプレイングゲームの職業に見立てたタイプに振り分けられました。それぞれのタイプが一人以上になるようグループ編成され、グループで協力してミニゲームを攻略しました。さきほど受付で配布していただいたものがエゴグラムのチェックリストとそれぞれのキャラクターになります。自分の傾向が分かるのはとても面白く、ロータリーの皆様にもぜひやってもらいたいと思ったので、よろしければチェックリストに答えて、当てはまったタイプを確認してみてください。ちなみに、私は黒魔道士タイプでした。自分でも納得するところとそうじゃないところがあり、それを皆で確認し合うのもとても楽しかったです。

話を戻しまして、「ロールプレイングゲーム」つまり「RPG」は、今年度の2720地区ローターアクトの地区ターゲットでした。様々なキャラクターが居るアクトの皆が一致団結して力を合わせようという意味合いがあり、これを年次大会のメインプログラムで実践するという発想がとても良いなと思いました。

みんなそれぞれ性格が違い、得意な事は様々ですが、力を合わせることで大きな力を「発揮」できるんだということが分かり、ローターアクトという一つの集団が発する可能性の大きさを感ずるとともに、野田ガバナーのお話にあった「信頼」が力を合わせる絆を生み、「個人を超えた力を発現して人生が充実する」ということにも通じるのではないかと思いました。

このような素晴らしい年次大会に参加し、学ばせていただいたことを玉名ローターアクトのみんなでも共有し、今後奉仕活動をはじめとするアクトの取組みに活かしていこうと思います。

参加させていただいたことに今一度心から感謝申し上げます、ご報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

